

(第3回) 感染症研究拠点の形成に関する検討委員会
議事概要

日時	2017年11月13日(月) 15:00 ~ 16:00
出席者	別添の通り。
場所	中央合同庁舎8号館5階共用会議室C(520)

《冒頭挨拶》

○内閣官房 塚本内閣審議官(主査)

長崎大学の高度安全実験施設(BSL4施設)整備については、昨年11月の関係閣僚会議における「国の関与について」の決定や地元自治体の施設整備計画の事業化への協力合意を受けて、計画が大きく前進し、現在、国・地元自治体・大学が連携・協力して計画を推進しているところ、今後も関係者間で進捗状況等を共有しながら、より一層の連携・協力を図っていく必要がある。

○長崎大学 河野学長

BSL4施設整備計画は、前学長の下で長きにわたって、国・地元自治体と連携して検討を進めてきたものであり、今後も、前学長の意志を継いで、本年9月に取りまとめた基本構想に基づき、引き続き地域社会の皆様との双方向のコミュニケーションを通して理解を深めていただきながら、感染症研究の強化に向けて計画を推進していきたい。

《構成員の主な発言》

○ BSL4施設整備について、平成30年度から施設設備の整備に着手するために必要な予算を概算要求するとともに、「長崎大学高度安全実験施設に係る監理委員会」を通じて長崎大学の取組を第三者の立場からチェックするなど、引き続き長崎大学の支援に努めたい。【文部科学省】

○ 今後、基本構想に基づき、実施設計やリスクアセスメント、安全管理マニュアルの整備などを進めるにあたっては、地元の理解を得ることが大前提であり、地域連絡協議会等を通じて積極的に地元と議論していくとともに、引き続き、長崎県、長崎市とも密な連携を図りながら取り組んでいきたい。【長崎大学】

○ 国における予算の確保や監理委員会の開催、長崎大学における基本構想の取りまとめなど着々と進んでいるものと理解している。今後、長崎大学には地元住民の更なる理解促進に向けて、安全対策の具体的な内容を示していただきたい。特に、安全管理マニュアルの整備にはスピード感を持って取り組んでもらいたい。【長崎市】

⇒ 安全対策については、国の支援も受けながらスピードアップを図っているが、詳細な検討が必要になっているところもあるので、地元と更に連携を図りながら、更なるスピードアップに努めたい。【長崎大学】

⇒ 地元住民の理解を得るためには不断の努力が必要と考えており、大学が進めている安全管理マニュアルの整備などの取組をしっかりと支援していきたい。【文部科学省】

○ 基本構想に示されているセキュリティ対策や万が一の事故等の場合の学内における対応体制について、引き続き具体的に検討いただきたい。【内閣官房】

⇒ 地元の警察ともセキュリティ対策の具体的な内容について議論している。また、学内の対応体制についても鋭意検討している。【長崎大学】

(別添)

(第3回) 感染症研究拠点の形成に関する検討委員会
出席者

氏名	役職
塚本 力	内閣官房内閣審議官 (国際感染症対策調整室長) <主査>
桑原 振一郎 (代理: 山口 寛峰)	内閣官房内閣審議官 (危機管理審議官) (内閣参事官 (副長官補 (事態対処・危機管理担当) 付))
鎌田 光明	内閣官房内閣審議官 (健康・医療戦略室次長)
板倉 康洋	文部科学省大臣官房審議官 (研究振興局担当)
吉永 和生 (代理: 磯貝 達裕)	厚生労働省大臣官房審議官 (健康、生活衛生、アルコール健康 障害対策担当) (健康局結核感染症課感染症情報管理官)
脇田 隆字	国立感染症研究所副所長
調 漸	国立大学法人長崎大学学長特別補佐 (感染症共同研究拠点・核 兵器廃絶研究担当)
安田 二郎	国立大学法人長崎大学感染症共同研究拠点高度安全実験 (BSL-4) 施設設置準備室長
濱本 磨毅穂 (代理: 園田 俊輔)	長崎県副知事 (福祉保健部次長)
三藤 義文	長崎市副市長